

# エアゾール製品は 火気と高温に注意

日常生活のさまざまなところで、便利に使われているエアゾール製品ですが、扱い方を間違えると思わぬ事故につながる可能性があります。

適量を均一に放出することができるエアゾール製品は、可燃性の液化ガスが使われていることが多く、使用時・保管時に火気に近づけたり、高温下に置いたりしないよう注意が必要です。また、廃棄時にも適切に処理をしないと思わぬ事故を起こすことがあります。

エアゾール製品の容器の中には、それぞれの製品の主成分や有効成分のほかに、それを溶かしている溶剤や、噴射するための高圧ガス（これを噴射剤と言います）が入っています。ボタンを押すとバルブが開いて、容器内に詰め込まれている高圧ガスが目的成分・溶剤とともに容器の外に飛び出し、急激に膨張することによって細かい霧や泡をつくるという仕組みになっているのです。

高圧ガスとしてよく使われているのがLPガス（液化天然ガス）やDME（ジメチ

ルエーテル）などの液化ガスです。液化ガスとは常温では気体のガスを圧縮するなどして液体にしたもので、通常これらは可燃性です。つまり、エアゾール製品は容器内部が高圧で、噴射されると空間に可燃性ガスが放出されるのです。

噴射剤に液化ガスを使用しているエアゾール製品は、高圧ガス保安法施行令関係告示に基づき「警告・注意表示」を記載することが決められており、必ず下記のような表示があります（エアゾール容器の構造や内容物の特性によって、注意事項が異なるため7種類の表示が定められていますが、ここでは最も一般的な表示を記載しました）。

## 火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。

- 一 炎や火気の近くで使用しないこと。
- 二 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- 三 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が四十度以上となる所に置かないこと。
- 四 火の中に入れていないこと。
- 五 使い切って捨てること。

高圧ガス：LPG

噴射された内容物に火が付くと燃えるので「火気に注意」、高温下では容器の内圧が上昇して破裂する恐れがあるので「高温に注意」する必要があり、併せて「火気と高温に注意」となります。さらに、5つの注意事項が書かれていますが、これらが守られていれば事故を未然に防ぐことができます。

事故は気を付けていたつもりでも要領を得ていないと起こるものです。見落としがち、やってしまいがちな間違いを挙げておきましょう。

「缶が破裂する危険があるので、40℃以上になる所には置かない」とされていますが、具体的にはどのような場所でしょうか。

まず挙げられるのはファンヒーターなどの暖房機の近くです。そして自動車の車内は夏場など、かなりの高温になるので置かないようにしましょう。また、室内でも窓際など直射日光の当たる場所は40℃以上になることがあります。見落としがちなのは、電磁調理器の上です。電源が入ってしまった場合、過熱されて破裂する恐れがあ

ります。また、中身が空だと思っても、直接、火の中にいれてはいけません。缶は密封されているので破裂する恐れがあります。

毎日の生活に欠かせないエアゾール製品は、使用から廃棄まで、事故のないように心がけたいものです。

